

令和２年度 兵庫県立人と自然の博物館協議会

日時：令和３年３月９日(火)10:30～12:00

場所：兵庫県立人と自然の博物館 大セミナー室

報告事項

- １）「令和２年度 ひとはくの活動内容」について
- ２）「令和２年度 中期目標の達成状況」について
- ３）「令和２年度 コロナ禍におけるひとはくの活動」について
- ４）質疑応答

議 事

- １）「令和３年度 ひとはくの主な事業」について
- ２）「コレクションナリウム新築事業」について
- ３）質疑応答

博物館）今日はお忙しい中、お越しいただきましてありがとうございます。また

リモートの皆さま方もご参加いただきありがとうございます。

コロナ禍の中で、皆さまも学校とか職場でこの１年間大変だったと思い

ます。この博物館も同じように、休館したり、Web セミナーを開催した

りといろいろありました。その意味では結構大変な1年間を過ごしてきました。

博物館協会では、2019年9月に京都国際会議場でICOMの世界大会という博物館国際会議を開催しました。その時、主催者によると、4500人以上の人が世界中から集まったとのことで博物館業界でわくわくしていたのが9月でした。それが終わって、最後の締めフォーラムが京都で2月にありました。その頃、もうコロナで大変な状況になっていたことを覚えています。それでもまだリモートではなくて、国際会議場でリアルにやろうという状況でした。それから1年、皆さんも我々も大変なことになってきたと思います。

今、博物館関係では博物館法を改正しようという大きな波があります。我々の博物館にはそれほど大した影響と思います。

昨年度は報告できなかったのですが、本日は昨年度と今年度にやってきた内容について報告をさせていただきます。また、新しい収蔵庫の計画も今、着々と進んでいますので、我々の報告を聞いていただき、さらに新しいアイデアとか、こうした方がいいとかご教授いただきたいと思います。

議長) ここから委員の皆様のご意見を頂戴したいと思います。今日は、オン

ラインも含めて委員全員が出席だということで、やはりオンラインだと出席率が高いですね。せっかくの機会ですので委員の皆様のご意見をいただきたいと思います。

委員) 三田市の小学校の代表として参加させていただいております。本校はここの人博の校区の中にありますから、総合的な学習であったり、理科の学習であったり、毎年、ここの研究員の先生方にはお世話になっております。三田市に設置されているということを考えますと今回のこの事業、低学年もそうなんですけど、実際的に対話的な学びを考えますと、自ら学んでいくというのが大事になってきますから三田市の学校が、せめてこのフラワータウンの学校であったり、南部にある三田小、三輪小、真ん中にあるウッディタウンの学校とかが、神鉄も通ってますからアクセス的にもよろしいんで、どんどんと利用できたらと。そういう学校の教育課程の中に築いていけたらなと思っております。来年度もたくさんのセミナーをしていただけますので、理科担当者の先生たちもここで毎年研究させていただいており、三田の理科教育にお力添えいただいております。ということで、今日提案されたようなことが、できたらと考えております。

委員) 中学校の立場からです。本校も今の3年生などは1年生の校外学習の時に活用させていただき、大ホールの中で1時間ほど講演を聞いたりしながら利用させていただきました。長年の兵庫県の中学教育研究会及び神戸市の研究会においても若手教員の研修のために、夏休みなどは、臨時研修と称して、ここに来させていただいて、いろんなお話を聞くとともに、利用することの促進についても広報してきた次第です。私が若い時にここができて29年ですか。ともにいろんなところで何度も何度もお世話になってきて来年30年を迎えるということで、大変感慨深いと思っています。

とりわけ、今の報告の中で、今年は新型コロナにおいて、さまざまな制約の中で、本当に運営に対してご苦労されたと思いますが、本当にいろんな感染防止対策であるとか、苦労された中で一際私が目についたのは、やはり今までここでしか見ることができなかった映像をWEB公開させていただいてかなりの利用数であったということで、セミナーを無料配信していただいたりして、新たな時代が開けてきているのかなと思っています。

今、学校現場では、ギガスクール構想によって、一人一台の端末が子どもたちに配布されておりまして、本校も先々週、やっと整備が済んで、今週

から利用が開始されていますが、そういう中で、こういうコンテンツ等を利用することによって自然科学への興味関心がさらに深まればいいなと思っています。しかしながら私本人としましてはやはりここにきて標本を直に見たり、生で研究員や講師の講演や成果、ご苦労などを生で聞かせていくことが子ども達にとって興味関心をさらに本物とするというように感じております。そういう意味においても両方ともしっかりと大切にしていきたいと思っています。

コンテンツの公開もさることながら、やはりここにくることを再確認したいと思います。また、ギガスクールで全国の小中学生は端末を持つことになりますので、是非、人と自然の博物館の広報用のコンテンツなんかも少し導入として見られるようなものを開発していただければありがたいなと思います。

委員) 三田祥雲館高校をはじめ、県立高校は普段から連携させていただいております。本校はスーパーサイエンス文部科学省の指定も受けて2期4年目となりますが、学校の教員のいわゆる知識とかノウハウを超えたものを人と自然の博物館の先生方に常にアドバイスをいただいているということで、生徒の学びの場として、本当に最適な場であると認識してお

ります。祥雲館高校だけでなく県立高校で利用する学校は特に思っていると思っています。特に2月11日の共生の広場では高等学校での発表をさせていただいておりますけども、いわゆる社会人の方、小中学生、一般の方、たくさんいらっしゃって、いわゆる繋がりという点ですごく貴重な場所と考えております。これから高等学校が探求活動を進めていながら学んだことをどんどん生かすようなそういった学習に展開していきますけどもこれからもぜひ学びの場として、毎年人博に行くたびに中身が変わっていたり、環境が変わっていたり、出し物が変わっていたり、本当に新鮮な感じで生徒とともに我々教員も感じておりますので、ますます新しい知恵と発想で取り組んでいただけることをお願いしたいと思っています。

委員) 私ども兵庫県は博物館協会という県内145館が、公立、私立含めてございます。日本でも有数の博物館国ということでございますけれども、その研修をいつも人博の方でしていただいております。今年も先般やらせていただきまして、先ほど小山さんが報告されましたコロナ禍における博物館活動を披露していただいております。そういうことで人博の存在は単体というだけでなく、兵庫県の博物館の中のリーダー役として活

動されていると私は常日頃からみておりますが、今回、特にコロナ禍の活動においては先進的な事例を作っていただいたと評価しております。

そういうことに敬意を込めてですけども、もう一つ先ほどの報告の中で、後で回答していただけたらと思いますけども、人博の事業で私は我々の世界にはあんまりないんですけども、重要だなと思っていることは、この資料の1のところの第4期中期目標の重点目標がございますが、その2「担い手の成長を支援して、活躍する舞台を提供する」いわゆるボランティアの人たち、連携グループの人たちと手を繋ぎながらやっておられる、博物館の今いる人たちだけでなく、館内にいる人たちだけでなく、外の人たちと成長しながら共生しながらやっていくことをやっておられるわけですけども、そのことでいうとボランティア活動というのはとても大きくて、650人という登録者数を持っておられるということがありますけども、流石にこのコロナ禍の中で、ボランティアのface to faceの活動はとても難しかったんじゃないかと思いますので、達成率73%というのはどのように評価していいのかわからないと思いますので数字ではなく、実体的なところでボランティア活動にコロナ禍がどのような影響があったのか、またそれにどういう風なことをして克服されていったのかについて後で補足していただければありがたいと思っております。

委員) 色々と報告をいただきまして、この一年コロナの中にありまして、さまざまな工夫をされて貴重な場を提供されてきたのがすごくわかりました。WEBを用いた新たな事業を展開されたということで本当にいろんなことがあったかと思えますけれども実りある1年だったのかなと改めて感じました。どうしてもコロナ禍の中であって、できないことに目を向けがちになるんですけれども、今様々なこととお聞きしまして、私自身もとても元気が出ました。

特に大学は対面授業がなかなか難しい現状がありまして、コロナ禍の中にあって、どのように学生の学びとか子どもたちへの直接体験を提供していくのか、常に課題になっているんですが、色々なヒントと言いますか示唆をいただけたのかなと思っています。実は昨年3月に本学は関西学院の中にある短大になるのですが、関西学院との合併を経て、昨年度10周年を迎えまして、ゆめはく、移動博物館が3月に聖和キャンパスに来るというとても楽しい企画があったのですが、コロナ禍にあってそれができなくなりました。ぜひ、今度また、ゆめはくにキャンパスに来ていただきたいと夢見ているんですけれども、今年度は移動博物館もコロナ禍にあって、感染症対策など大変だったかなと思ひまして、先ほどの報告で移動博物館、ゆめはくの稼働率が

高かったとみてとれたんですけど、この博物館、移動博物館の中でのコロナ感染症対策の工夫などについてもちょっとお聞きしたいです。

また、保育者とか教育者を目指す学生たちにどのように直接体験を与えていくのかというのも今後、本学としても幼児教育、教育界におきましても大きな課題となっていますので、その辺りもまた子どもたちも含めて教育・保育を目指す若い学生たちにとってもどういう可能性があるのかということも私も考えていきたいです。

委員) ご説明していただいた中で特に印象に残ったのが、気になっていた収蔵庫が来年度にようやくできるという報告があったのですが、今まで私自身、植物をやっているのですが、なかなか標本を確認する機会がないんです。今、我々の仲間の中では奥の院的な感じでちょっと行きやすいとはいえなかったんですね。ですからこれが完成したあかつきには我々のようなものでも非常に参考になりますので期待したいなと考えています。

それと人博の先生方にご厚意にさせていただいてることもあるんですが、先日、東播磨の高校2校のそれぞれ研究したものを県民局で発表を出したのですが、その中でそれぞれの高校なんですが、指導する先生、例えば明石の高校で指導する先生の研究で Web を利用して植物図鑑を作るという中で、同

定作業で植物の名前を確定する作業をですね、県民局を通して私のところに来たんですけどもっと適任者がおるやろうというふうなことで提案したんですけど、やはりその中で人博の先生方は非常にハードルが高いと。いろんな取り組みをしてはいるのですが、結構そういう東播磨、あるいは姫路地区はちょっとハードルが高い。でもそれぞれの先生方はいろんなところに入られてやっていることはやっているんですけど、やはりまだそういう声を聞きます。従って、できるだけぼくらがいろんな紹介してあげればいいんですけども、もっと入ってもらえるようなこれもやはり県の例えば県民局というところがもっと認知しないとあかんのかなと感じたところです。

今、私は姫路市の植物園ですけどもこれからもどんどん先生方と接点を持たしていただいて、現在進行形で共同研究も進んでいますけども、これからますます期待したいと。我々の思うことは先生方の負担になるのですけどもこれからよろしくお願いしたいと思っています。

委員)　ここ 10 年ほど、多摩美は人博から遠いですけど研究活動でいろいろ関わりさせていただいていて、突然のコロナ禍で皆さんがどうされているのか、昨年はこの協議会の開催がお休みになってしまったので大変気にかけていましたが、今年来れてよかったと思っています。

コロナ禍の中で東京の博物館は美術館もかなり苦戦しておりまして、どういう風に Web 配信で家にいる子どもや家族の方々に博物館の活動を楽しんでもらうかというところに焦点が当たっているかと聞いているのは非常に重要なポイントだと思っています。

この資料の「ひとはくの活動」のところでおっしゃっていただいた「新たな可能性の創造」というところで、今後、コロナが終息してもきっと博物館体験は少し変わってくるのではないかとされています。

現在、新しい可能性ということで VR、AR を用いた動画配信、コンテンツの共同研究をやらせていただいているんですけれども、ぜひこちらでも Web 配信で一方的に配信するだけでなく家庭でも楽しんで、またこの体験をフィードバックできるような試みを、いろいろな可能性があると思いますので検討していただいて新しい可能性を広げていただきたいと思います。

委員) コロナ禍における人博の活動というのがありましたが、とても大変な状況の中で対策を取ってこられたのがよくわかりました。他の方もおっしゃっておられたんですが、非常に重要だなあと思いましたのがオンラインに対するコンテンツの配信ですとかオンラインセミナーの実施の部分ですね。

今年度コロナということでうちの大学の方でも授業がほとんどオンライン

での配信という形になってしまって、学生自身も大学に来れないということで非常に残念ということがあったんですけど、その一方でオンラインでの授業の評価は自分の都合のいい時間にじっくりと先生の話や講義を聴くことができる。対面ですと聞き逃したりすることもあるんですけど、そういうこともうまく解消できる。オンラインの良い面というのも実際としてあったという声も聞くようになりました。ですので、従来の対面方式とオンラインをうまく活用することで、学習効果を高めていけることが今後もあるんじゃないかと思います。こういった中でこれまで、今回コロナという中でコンテンツを作られたと思うんですが、人博になかなか遠方ということで来れない方に対してこれまでではキャラバンという形で教育の機会を提供されてこられたと思うんですけど、それに加えて学習機会を提供することを今後もっと進めていただきたい。あともう 1 点は質問なんですが、コレクションナリウムのご説明があったんですが、こういった新しい施設ができるということで楽しみにしているんですけど、標本の意義を展示で伝えるのはわかったんですけどもそれ以外に、展示以外のことでボランティアの方たちと連携ということも含めてどのような活動をこの場所で想定されているのかを後で教えていただきたいと思っています。

委員) 委員の先生方がみんな言ってくださったので、私が今さら付け加えることはないので、本当に非常に厳しい状況の中で皆さんが英知を出し合ってよく頑張ってくださっていると非常に感無量ですし、心から敬意を表したいと思います。本当にご苦労様です。

止まない雨はない。明けない朝はないという訳で、やがて来るんですね。ポストコロナ時代、あるいはニューノーマルの時代が。これを奇貨として多くの先生が言われている遠隔と対面というハイブリッド的な新しい博物館の在り方を模索していってくればいいなあとと思っています。

ただ、僕は個人的には、人はビデオを見て育つのではないだと思っています。やっぱり人との対話を通じて育つんだらうと思っています。だからしんどい状況が続きますが、できるだけいろんな困難を乗り越えてやっぱり出会いを大切にしながら夢を育てていってくださればありがたいと思っています。

委員) 日ごろから市の行政運営に先生方にご協力いただきありがとうございます。来年度、私の方が担当しております有馬富士自然学習センターの 20 周年ということになります。また委託事業でありますけれど内容的なことをいろいろ考えていただきありがとうございます。

市の方も広報等を通じまして特集を組んで行こうと考えてますので大々的に
20周年等を進めていきたいと思っています。ご協力の程よろしく願います。
す。

委員) この1年は本当に博物館だけでなく、いろんなところで皆さんご苦労な
されたと思います。キッズプラザでもかなり厳しい条件となりまして、継続
も危ういというところまでいったんですが、来年度も何とか無事、迎えるこ
とができそうになっております。

人博の皆さんもこのコロナ禍の中で取り組んでこられた様々なことに本当
に敬意を表したいと思います。他の方もおっしゃっておられた動画配信やセミ
ナー配信も積極的に始められたということに、私も素晴らしいとお聞きして思
いました。3年前の協議会の議事録をちょっと振り返って見たときに、「動画
配信などはしないんですか」という質問があって、それに「今は考えていませ
ん」というお答えがあったんですけど、それを思うとやっぱりこういう大きな
出来事が後押しをしたんだなあと改めて感じたところでした。

やはり新しいことを始めることはすごくご苦労も多かったのではと思います。
動画を少し拝見させていただいたんですけど、どうしても笑みがあふれてしま
う先生とか、人の熱意があふれているのがわかってすごく引き込まれま

した。淡々としゃべっておられる中にも愛情があるんだなあと思われる感じでした。やっぱりその人の熱意が心を動かすんだとすごく感じていますので、研究の内容ですとかキッズサンデーとかイベントとかもいろいろ発信されて、それぞれの人となりと同時に発信されているのでそれを楽しみにさせていたでています。あと今日はおっしゃってなかったと思いますが、SNS も最近始められたんですね。Facebook と Twitter を始められたように拝見したんですけれども、こちらもしっかりこれから活用されると思うんですけど、こんなイベントをしますとか、こんな動画を配信しましたとか、これから広がっていくかと思っていますのですごく期待しています。

やっぱりこの1年オンラインというのが進んできて、「やはり疲れるね」とか「オンラインが続くとしんどい」とか、そういう声もいろいろあるかと思うんですけれども博物館もメディアの一つとして展示やイベントを通じて、どうコミュニケーションをしていくのか、オンラインというものが増えて選択肢の可能性が広がったのではないかと考えています。

今、私はリモートで参加させていただいていますが、リモートかその現場対面か、ローカルなのか、動機か非動機か、後で動画を見るか、生で参加するのか、それかまたは一方的なのか、また双方向的なのか、いろんな軸によってそれぞれのコミュニケーションというのか、考え選んでいけるのかなあと思います。

ます。

やっぱりその現場で、いっしょにお互いのやりとりをしながらすごく価値があるのかと思うんですけども、やっぱりコミュニケーションとしてのコストがかかってくるというところがあると思っています。バーチャルや疑似体験、リアルな体験をどう繋ぐのかが検討課題だとおっしゃっておられたけれども最適なコミュニケーションを選んでいくのが、これからの課題なのかなと思いました。

あともう一つは、持続可能な地球ということが、今やはり大きな課題と人博はまさに人と自然の共生のことを発信されるととても貴重な博物館だと思います。

SDGsの意識がかなり広まって、もはやSDGsウォッシュのふりをしたらいいんじゃないかという批判的な声も出てきているようですけれども、やはり私たちとしてもキッズプラザとしても子どもたちや家族にどうやって発信していくかが課題になっていて、やっぱり大切にしたいとかそれが好きになったとか、その状況を知った時とかに博物館は大きなメディアだと思います。で、今後、皆さんの魅力も含めて人と自然の共生について発信していただきたいなと思うんですが、コロナ禍で一瞬世界中が止まったみたいなことがあって、また動き出して、もう徐々に戻ってきているかと思うんですけど、

このまま以前の状態に戻るだけではないということもよく聞きます。ぜひそのあたりについても人博からの発信を期待したいと思います。

委員) ご報告いただき、本当に大変だっただろうと思います。

リアルに会えること、イベントができることがどれだけ幸せなことだったのか皆さんも身に染みて感じておられるだろうと思います。

けれども、しっかり人博の強みであったりだとか、資源、自分たちが何をもっているのかを理解されて、しっかりとオンラインであったりというところで活用されているのを素晴らしいことだと思います。

三田市さんがですね、我々バスの方でも自動運転であったりとか、人と荷物をバスでいっしょに運ぶとか新しい取り組みをどんどん進めさせていただいている地域でございますので、人博といっしょに我々も取り組みを進めていきたいなあと考えております。我々も、観光がかなり大打撃を受けているところで、どうしようかと立ち止まりそうになることもあるんですけど、まず近場であったり、兵庫県内の観光というところから徐々に復活させていくという動きで進んでおりますのでリクエストになってしまうんですけど、イベントであったり、セミナーをいろいろされていかれると思うんですけど、兵庫県に住んでいる方向け、そこに特化したようなイベントなん

かもぜひお願いしたいなど。人博のイベントやセミナーをきっかけに、兵庫県、じゃあ三田はこういうことやけど、神戸はどうだろう、淡路島はどうだろう、もっと北の豊岡はどうだろうという感じで、皆さんが兵庫県内をついつい巡りたくなるようなそういったきっかけを与えていただければ、その旅行なんかも組み込んでいきたいなと思っております。あと、特に遠方に住んでいらっしゃる方、兵庫県外に住んでいらっしゃる方、なかなか簡単に帰ってくることができないようになっているかと思うので、その方々が兵庫県を感じられるような懐かしめるコンテンツを是非作っていただけたらなあと思っております。1点質問なんですけれども、ちょっと前の質問と被ってしまうかなと思うのですが、コレクションナリウムを新築されるということで、実際に来館されたお客様にとって本館とコレクションナリウムとの違いと云うか、役割分担というものをどのように考えておられるのかを後で教えてくださいたいと思います。

委員) 私は全く素人と申しますか、博物館活動を存じ上げないというところでの視点で失礼なことを申し上げるかも知れませんがお許してください。

学術、教育、そしてイベントやセミナーと広い分野に渡って活動をなされていると大変感動いたしました。私個人といたしましては、一母親、一住民と

してこの博物館を訪れたという経験がこの人と自然の博物館というものであります。今回、この委員を命ぜられまして、何回か一般展示の方を見学させていただきました。そうすると懐かしいなあという感じでした。大よそ 30 年前、子どもを連れて来た時には、世界一大きなきれいな花があるよとか、恐竜がいるよとか、そういうところで見せてもらって感動した訳なんですけれども、それがそのまままだあるということにとっても驚きました。ちょっとしぼんでしまったお花ですとか、木の標本も色が全部同じ色になってしまってますし、それから今ご説明の中では、全年代を対象にするとおっしゃってましたけれども、ルビがふられてあるもの、ふられていないもの、この視点といいますか、どの対象を狙った展示かちょっとよくわからなかったとか、まあそういった感想をもったところです。ただこれは私一個人の感想ですので、この度、息子を連れて参りました。30 歳を過ぎていますがその息子が 1 日楽しんでいました。やはりいろんな理科の分野が見られるところはそれだけで新鮮な喜びなんだなあと思いました。ただ、息子が申しますのは 1 日いるにはご飯が食べられない。やはりそういう施設が欲しいなあというように申しておりました。やはりこういう一般の市民対象の展示、それは自然科学とか理科への入口だと思います。興味を引く、そこにもう 1 度焦点を当てていただけたらなあと思います。

委員) 私も一市民としてこの街にある博物館とともに歩んできたような気がしているのですが、こちらに再び足を運ぶきっかけとなったのは、多文化共生ということで、私が所属しております三田市国際文化交流協会も震災以降取り組んでおりまして、それが人と自然の博物館が人と自然の共生ということをテーマにされている共生という共通点に深く感銘いたしました。

その精神がいたるところに徹底されていることに、この 2 年間気づかされる思いで勉強させていただいたのかなと思っています。私たちの年代はおそらくは藤本委員がおっしゃったように子どもを連れて参加した年代がこの館がオープンした当初だったと思うんですけど、考えますと久方ぶりにまたこの機会をちょうだいして、改めて館をいろいろと拝見させていただいたり、皆さまがされている様々な面の研究だけでなく、教育活動や団体との連携など、考えられる限りの活動をされていると思うんですね。

ただ、対象が興味あるところに集中しているのかなという感がありまして興味を失ってしまった私たちぐらいの年代の者は、あるいはもう少し大きな人たちの取り込み、特に女性の取り込みについて、ちょっとハードルの高さを感じているんです。講座を見せていただいても中学生以上とかそういう目安を書いていたっているんですが、そこへこの 2 年間私もどれかの講座に参加

させていただいて知識を高めたい思うんですが、その一步が踏み出せないでハードルの高さを感じております。ちょっとリクエストなんですが、女性オンリーの講座を何か考えていただけないかなと、そうすると足が運びやすいのかなと。あと女性特有と申しますか、何かおまけがついているとか。ここに来ると例えば、コーヒーの焙煎の講座をされるような案内がありましたけれども、あれを実際、飲んで楽しむのが定期的にあるとか、その間に館のお話が伺えることもしていただけると少しハードルが下がるのかなと思います。

私はたまたまここに参加させていただいてから館の素晴らしさ、三田市民としても誇れる素晴らしさを改めて勉強させていただいて、ますます地元への愛が深ったというのがあるんです。もったいないなあと思うのは私の周りの誰もそういうことに気づいていない。子どもが小さかった時にはおそらくみんなこのありがたみを感じていたのだろうけれど、最近はそれに気づいていないかなと思います。つまり何かもっと広報を考えていただけたらなあと 생각합니다。それと何度か館を訪れさせていただいて最初はいろいろ説明はあるんですよ。私が所属させていただいている国際交流協会の方でも館の多言語化に少し協力させていただいた経緯もあるんですけど、今、音声で質問を使えば音声で案内をしていただけるのはありがたくてすごい進歩だなと。今まで説明は読んで回るのは到底不可能であったのが音声で説明していただける

のはすごくありがたい。あの素晴らしい英語を改めて勉強させていただいて
います。ただ、三田市には英語圏の方、いろいろな国の方がいっぱいおられ、
英語はいろんな国の方に対応できるので英語が基本だと思うんですが、でき
ましたら中国から来られる方、大勢いらっしゃいますし、これから海外から
お見えになる方も増えるでしょうし、中国語ぐらいは出していただけたらあ
りがたいなという思いもあります。こうして私は参加させていただきました
けれども、みなさんといっしょにできたデジタルアーカイブの世界は本当に
楽しかったです。距離が近づいた気がします。たとえ私がここに住んでいな
かったとしても、県内で遠いところに住んでいたとしてもふれあう機会があ
るというのは新しくありがたいことでした。近所に住む一市民としてこれか
らも応援しておりますのでよろしくお願いいたします。

議長) 一通り発言、提案とかいただきましたので質問にお答えしていただきたい
と思います。ボランティア、ゆめはく、コレクションリウム、それから西播
磨、いろいろありました。

博物館) まず、私の方からボランティアの活動について回答したいと思います。

中期目標では 5 年間で担い手の登録者数 650 名となっておりまして、現時点

で 476 名という状況です。これらの方々の活動は様々です。他の博物館ですと、展示解説ボランティアとか整理ボランティアという方がいらっしゃいます。当館でも化石のクリーニングをしていただいているボランティアがいらっしゃいますけれど、そういう方々は一部で、他の方は自由に活動されています。博物館を舞台にして子ども向けのイベントをされる方もいらっしゃいますし、博物館ではない地域で子ども向けの自然体験プログラムを実施されたり、あるいは自分の研究活動をされたり、そういう活動をされています。我々としてはそういう方の活動をできるだけ支援すると共にいっしょに取り組んでいこうという形で連携しております。今年度はコロナ禍の関係でいろんな制限がありました。博物館で活動されているボランティアの活動も制限されました。館外で活動されているボランティアがどのような活動をされているのかくわしくは把握してませんがコロナ禍に関係なく活動されている方もいらっしゃいますし、人によって様々であるというのが実態です。

博物館) コレクショナリウムの位置づけについてご質問頂いたかと思えます。コレクショナリウムですが、最初にご説明させて頂いたとおり建物としてはそんなに大きくはありません。また、来館者の方にご覧いただけるのは1階だけということになります。博物館は開館以来資料収集を続けて200万点近い点数を

集めておりますが、どうしてそんなに沢山資料を集めるのか、収集した資料にどんな価値があるのか、ということがわかるのか、そういったことを新館でお伝えしてから、本館に期待を込めて行って頂こうと思っております。新館は本館のイントロダクション的な位置づけと考えています。博物館の収蔵庫はバックヤード的な扱いですので、博物館に来られる方で、展示している資料以外にも膨大な資料があるということを理解してお帰りになられるお客様はそう多くないと思います。今回一番表になる場所に収蔵庫が出来てしまいますので、そのことを逆手にとって、博物館というのは資料を集めて、それらを将来に伝える場だということを打ち出したいと思っています。この博物館は人と自然の関係を考える博物館ですので、展示空間の一部を使って兵庫の自然はこうですよと言える場所にしたい。それから、新館ができることによってどういう活動が行われるかというご質問があったと思うんですけども、コレクションナリウムができると、収蔵場所と来館者が来られる場所がものすごく近くなります。現状ですと、展示を見て頂く場所と収蔵庫のある建物は別で非公開ですが、コレクションナリウム1階のコレクションギャラリーは2面ガラス張りで来館者がすぐ外側から中を見ることができる収蔵庫になりますし、2階にあがれば植物の標本庫があります。一方でワークルームと呼んでいる場所は、今の体験型セミナーをする場所と位置付けているんですけど、例えばボランティアの方にそこで植物標本を貼っ

て頂く、剥製を見ながら自分の創作活動をして頂くこともできるように思っていますし、植物標本については25万点程デジタル化したので、ネット上にデジタルアーカイブ「バーチャル植物標本庫」を作り、今ギガスクール構想で小中学生の生徒さん1人1台端末が配布されているので、学校とコレクションariumを繋いでバーチャル植物標本庫を使って植物について調べたり、ある植物の分布を調べるような1連のセミナーをオンラインでやり、最後にはリアルな標本を見に博物館に来ていただく、というようなセミナー活動もできると思っています。昨今のコロナ禍によってデジタル環境が急速に整いつつありますので、リアルとオンラインのハイブリッド、両方を生かした博物館活動を展開していきたいと思っています。

議長) あと、ゆめはく号の稼働がどうしてもそんなに高いのかという質問がありました。

博物館) ゆめはくについてお答えします

博物館に行くことは難しいというご意見はたくさんいただいています。

その分、博物館から我々の所に来て欲しいというご依頼が非常に増えていま

す。そういったことで、ゆめはく派遣の依頼が増えているのかと思っています。ゆめはくについては、ご存じのようにトラックの荷台を開けてそこに搭乗していただくというかたちになりますので、10人の定員を絞ること、搭乗の際、また降りていただく際には、アルコール消毒をしていただくなどといった感染対策を実施しているところです。

議長）最後に私から感想めいたことですので。お答えは特に要りません。

今日の議論で、コロナの影響でオンラインかオフラインかとの議論や人博のいろんな工夫を紹介いただけたわけですがけれども、オンラインかオフラインかというのは相反するものではないと思います。つまりオンライン、オフラインという軸とこのセンターとサテライトと言いますか、ゆめはくが出ていくような地域の2つの軸をもっていろんな工夫が今後できるのかなと思っています。例えばここ、人博の本館にやって来られ、いろんなデータを自ら探してみるとか、あるいは、ゆめはく号が行った先で、ここの展示はこれだけあるけど、端末からこれを見たらこんなことができますというような組み合わせの形で、先ほどハイブリッドな形とおっしゃられたけれども、それをもとに立体的にいろんなことが考えられるのかと思ってお話を伺っておりました。

その上でやはりこの場所については、縁側ミュージアムというようにいろんな

面白い試みもされている。ニュータウンの、あるいは三田のこの場所にここ
があって、ミュージアム界限というものをつくっていくということ。界限と
しての魅力という私の専門からするとぜひそれにも取り組んでいただきたい
し、それがまたニュータウンの再生とか魅力向上にもつながるきっかけにな
っていくのがひょっとしたらコレクションナリウムなのかも知れないと思って
いました。ということで、ミュージアムの最先端を走っているいろんなことをや
っている人博だからこそ要求はどんどん高くなっていきますけど、ぜひそれ
に応えていって欲しいなあというのが私の最後の感想です。

ということで時間になりました。長時間いろいろアドバイスを頂戴きありがと
うございました。これで協議会を終了させていただきます。